

コンパイラ理論 3 字句解析と構文解析

櫻井彰人

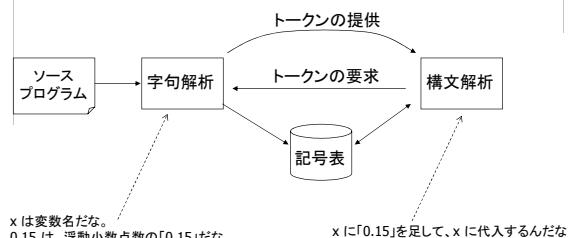
プログラミング言語の定義

- ◆ プログラミング言語は次の2階層で定義される。
 - 語彙(単語)とはどういうものか
 - (定義された語彙を用いて)どういう風にプログラムを書くのか?
- 一気に(つまり、一階層で)定義することもできるのだが、分かり難くなる。

コンパイラの構造も

- ◆ その2階層に対応するように、コンパイラも作られる
 - 語彙の認識 ⇔ 語彙の定義
 - 字句解析という
 - 文字の並びをみて、単語に区切る
 - 例えば、変数と定数とを区別する
 - プログラムの認識 ⇔ プログラムの定義
 - 構文解析という
 - 例えば、これは「変数xと変数yの値を足してzに代入する」ことだな、と認識する

字句解析と構文解析



なぜ分けるか?

- ◆ 字句解析を構文解析から分ける理由:
 - 「字句」の定義は、正規文法ができる
 - 簡単な道具で済ませられるところは、簡単にすまそう!
 - 設計が単純になる
 - 効率(速度等)の向上が図れる
 - 可搬性がます
- ◆ 字句解析・構文解析それぞれによいツールが存在する

トークン・字句・パターン (Tokens, Lexemes, Patterns)

- ◆ トークンは、キーワード(if, for, long,...)、演算子(+,*,...)、識別子、定数、文字列、区切り記号を含む、字句が属すクラスのことという
- ◆ 字句は、文字のある列であって、ソースプログラム内で意味をもつ最小の単位
- ◆ パターンは、(Lexで用いるが)あるトークンの生成規則

トークンの例

```
プログラム  
MODULE HelloWorld;  
BEGIN  
    WriteStr("Hello World!")  
END HelloWorld .
```

トークンとはプログラムの最小構成要素
文章だと、「単語」に相当
プログラムだと、「トークン」と言われる

```
トークン  
MODULE HelloWorld  
;  
BEGIN  
WriteStr  
(  
"Hello World!"  
)  
END  
HelloWorld  
.
```

「コンパイラ入門 C#で学ぶ理論と実践」より

トークンとは

- トークンは言語仕様の中で定義されている
 - ① <規則>で定義されているもの～識別子、数、文字列
 - ② 予約語～MODULE、INTEGERなど
 - ③ その他の記号～2文字(<>、:=)、1文字(;)など
 - BNFで使われているシンボルとの違いに注意

例1 <ident>は規則で定義(先頭が英字で、2文字目以降は英数字)

例2 MODULE, BEGIN, END等、プログラムの予約語

例3 「;」や「.」など埋め込まれている文字

```
<program> → MODULE <ident> ; [ <declist> ] BEGIN <statlist> END <ident> .  
<ident> → <letter> ( <letter> | <digit> )  
<digit> → 0|1|2|3|4|5|6|7|8|9  
<letter> → a|b|c|d|e|f|g|h|i|j|k|l|m|n|o|p|  
          q|r|s|t|u|v|w|x|y|z|  
          A|B|C|D|E|F|G|H|I|J|K|L|M|N|O|P|  
          Q|R|S|T|U|V|W|X|Y|Z
```

語彙とは

- トークンの中で、特に扱うもの
- ものすごく個数が多いので、「規則」を使って定義
 - 識別子（先頭は英字、2文字目以降は英数字）
 - 数（1桁(1文字)以上の数字）
 - 文字列（“”）に囲まれた文字～但し1行以内のもの）

```
<ident> → <letter> ( <letter> | <digit> ) * 識別子  
<integer> → <digit>+ 数  
<string> → "any character except EOF, EOL and " * 文字列
```



```
<digit> → 0|1|2|3|4|5|6|7|8|9  
<letter> → a|b|c|d|e|f|g|h|i|j|k|l|m|n|o|p|  
          q|r|s|t|u|v|w|x|y|z|  
          A|B|C|D|E|F|G|H|I|J|K|L|M|N|O|P|  
          Q|R|S|T|U|V|W|X|Y|Z
```

語彙の定め方

- 予約語として
 - プログラムの中で予め使い方が決められている文字列
 - 予約語は変数名として使えないことが多い

```
<program> → MODULE <ident> ; [ <declist> ] BEGIN <statlist> END <ident> .  
<declist> → VAR ( <identlist> : <type> ; )+  
<type> → INTEGER | STRING  
<statement> → <ident> := <expression>  
           | IF <relation> THEN <statlist> [ ELSE <statlist> ] END  
           | WHILE <relation> DO <statlist> END  
           | <ident> "(" <literal> ")"
```

語彙の定め方

その他の記号

- 区切り記号
- 演算子。言語によっては英数字を使うことがある。人間が読みやすいように、特殊な記号を用いることが多い

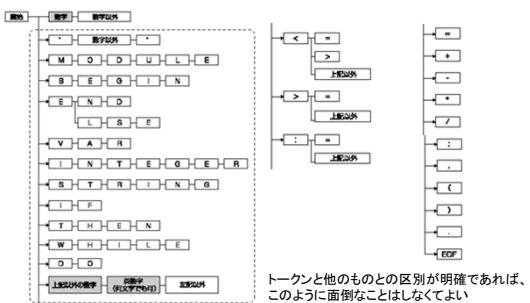
```
<program> → MODULE <ident> ; [ <declist> ] BEGIN <statlist> END <ident> .  
<declist> → VAR ( <identlist> : <type> ; )+  
<statlist> → <statement> ( ; <statement> )  
<identlist> → <ident> ( , <ident> )  
<statement> → <ident> := <expression>  
           | IF <relation> THEN <statlist> [ ELSE <statlist> ] END  
           | WHILE <relation> DO <statlist> END  
           | <ident> "(" <literal> ")"  
<relation> → <expression> <rel op> <expression>  
<expression> → <unary op> [ <term> ( <add op> | <unary op> ) <term> )  
<term> → <factor> ( <mul op> <factor> )  
<factor> → <literal> | "(" <expression> ")"  
<rel op> → = | <= | <> | > | >=  
<unary op> → + | -  
<add op> → + | -  
<mul op> → * | /
```

トークン一覧例

分類	例	BNF	説明
数値	123	int ::= digit*;	1文字(複数)以上の数字
文字列	"abc"	" <any> add "	「で囲まれた文字列(文字列にはEOF, EOL, "は含まれない)
識別子	HelloWorld	word ::= letter*	英字のみの文字列
演算子	=	eq ::= letter	等号
予約語	MODULE	MODULE ::= letter*	BNFでの予約語
予約語	IF	IF ::= letter*	BNFでの予約語
予約語	THEN	THEN ::= letter*	BNFでの予約語
予約語	DO	DO ::= letter*	BNFでの予約語
予約語	END	END ::= letter*	BNFでの予約語
予約語	VAR	VAR ::= letter*	BNFでの予約語
予約語	INTEGER	INTEGER ::= letter*	BNFでの予約語
予約語	STRING	STRING ::= letter*	BNFでの予約語
予約語	LETTER	LETTER ::= letter*	BNFでの予約語
予約語	CHAR	CHAR ::= letter*	BNFでの予約語
予約語	COLON	COLON ::= letter*	BNFでの予約語
予約語	SEMICOLON	SEMICOLON ::= letter*	BNFでの予約語
予約語	COMMA	COMMA ::= letter*	BNFでの予約語
予約語	COLONSEMI	COLONSEMI ::= letter*	BNFでの予約語
予約語	PERIOD	PERIOD ::= letter*	BNFでの予約語
予約語	QUESTION	QUESTION ::= letter*	BNFでの予約語
予約語	COLONPERIOD	COLONPERIOD ::= letter*	BNFでの予約語
予約語	COLONQUESTION	COLONQUESTION ::= letter*	BNFでの予約語
予約語	NOT	NOT ::= letter*	BNFでの予約語
予約語	AND	AND ::= letter*	BNFでの予約語
予約語	OR	OR ::= letter*	BNFでの予約語
予約語	NOT_EQ	NOT_EQ ::= letter*	BNFでの予約語
区切り記号	,	,	セミコロン
区切り記号	;	;	コロン
区切り記号	:	:	カンマ
区切り記号	,	,	半角カンマ
区切り記号	.	.	ドット
区切り記号	?	?	ディクタ

トークン識別チャート

構文解析プログラムが書きやすいうようにチャート化



トークンと他のものとの区別が明確であれば、
このように面倒なことはしなくてよい

言語の規則の階層1 – 字句

■ 字句解析用

■ パーサでは使用しない。定義済みとして考える。

<ident> → <letter> (<letter> | <digit>)*

<integer> → <digit>+

<string> → "<any character except EOF, EOL and " >*

<digit> → 0|1|2|3|4|5|6|7|8|9

<letter> → a|b|c|d|e|f|g|h|i|j|k|l|m|n|o|p|

q|r|s|t|u|v|w|x|y|z|

A|B|C|D|E|F|G|H|I|J|K|L|M|N|O|P|

Q|R|S|T|U|V|W|X|Y|Z

言語規則の階層2 – 構文

```

<program> → MODULE IDENT ; [ <declist> ] BEGIN <statlist> END IDENT .
<declist> → VAR ( <identlist> : <type> ; )*
<statlist> → <statement> ; [ <statement> ]
<identlist> → IDENT , IDENT )
<type> → INTEGER | STRING
<statement> → IDENT := <expression>
| IF <relation> THEN <statlist> | ELSE <statlist> ] END
| WHILE <relation> DO <statlist> END
| IDENT "(" <literal> ")"
<relation> → <expression> <rel op> <expression>
<expression> → [ <unary op> ] <term> ( <add op> [ <unary op> ] <term> )*
<term> → <factor> ( <mul op> <factor> )*
<factor> → <literal> | "(" <expression> ")"
<literal> → IDENT | NUMBER | STR
<rel op> → = | < | >= | < > |
<unary op> → + | -
<add op> → + | -
<mul op> → * | /

```